

看護学生の異文化に対する受容態度 ーインドネシアとの比較からー

○中村悦子¹⁾ 小笠原広実²⁾
新潟青陵大学大学院看護学研究科¹⁾ 日本アジア医療看護育成会・医療法人偕行会海外戦略部²⁾

目的と背景

日本A県内の看護学生とインドネシアの看護学生のもつ異文化受容態度について比較し、その傾向を明らかにする。

＜背景＞

自由貿易協定(FTA :Free Trade Agreement)、経済連携協定(EPA :Economic Partnership Agreement)をきっかけに外国人看護師の受け入れが始まっており、協働・共生の時代を迎えている。

方 法

- 1. 調査対象** 日本A県内6つの学校とインドネシア5つの学校の看護学生894人
- 2. 調査期間** 2015年10月～12月。
- 3. 調査方法** 無記名自記式質問紙を用いて、郵送により回答を得た。
- 4. 調査内容** 属性のほか異文化交流体験の有無、異文化受容態度に関する33項目。質問項目は文献¹⁾を参考に独自に作成(著者の許諾を得た)。5件法で点数化し回答を得た。
- 5. 分析方法** 1. 外国文化体験の有無は記述等計量を算出し、「有り」の回答を比率により比較した。
2. 異文化受容態度33項目について項目ごとに記述統計により集計し、平均値(標準偏差)を算出した。t検定により国別比較をした。有意水準5%。統計ソフトはSPSS ver.21.0J for Windowsを使用した。
- 6. 倫理的配慮** 所属長に事前に研究目的、守秘義務、自由意思等について説明し、承諾の得られた施設に調査を依頼した。調査は無記名で行われ個人が特定されないこと、データは研究目的以外に使用しないこと、同意後も研究協力の取りやめが可能であり、不利益は生じないことについて、説明し回答をもって同意を得たものとした。新潟青陵大学倫理審査委員会の承認を得た。

結 果

回収数814人(回収率91.1%)、有効回答数802人(有効回答率98.5%)

1. 対象者の属性

平均年齢は、日本22(18～43)歳、インドネシア21(18～40)歳であった。学校区分では、大学は日本95人、インドネシアは149人であった。

表1 属性		n=802	
		日本	インドネシア
年齢		平均 21.8(18～43) 歳	平均 20.6(18～40) 歳
性別	男性	31人(10.8%)	108人(21.7%)
	女性	274人(89.8%)	389人(78.3%)
学校区分	大学	95人(31.1%)	149人(30.0%)
	専門学校	210人(68.9%)	348人(70.0%)

2. 外国文化体験の有無

「外国での生活体験がある」は、日本33人(10.8%)、インドネシア13人(2.6%)であった。「外国語による会話ができる」は、日本31人、インドネシアは264人(53.1%)で語学力の差が著明であった(表1)。

表2 外国文化体験の有無ー日本・インドネシアの比較	人数(%)	
	日本(n=305)	インドネシア(n=497)
外国人の友人・知人がいる	85(27.9)	136(27.4)
外国に住み、生活経験がある(1週間以上)	33(10.8)	13(2.6)
外国旅行によく行く	16(5.2)	9(1.8)
外国の映画(TV)をよくみる	163(53.4)	431(86.7)
外国の書物、雑誌をよく読む	24(7.9)	130(26.2)
外国語による会話ができる	31(10.2)	264(53.1)

3. 異文化受容態度33項目の平均値比較について

平均値が4.0以上の項目は、日本では4項目あり、その中でも「わが国の文化と外国の文化の両方を同じように尊重していかなければならない」(4.29±0.81)が一番高く、インドネシアは6項目あり、「外国の人とつきあうと視野が広がるのでよいと思う」(4.30±0.91)が一番高かった。

日本とインドネシアの比較では、ポジティブな態度では、日本は「外国の文化や外国の人たちのことは興味がない(逆)」「もっと我々はいろんな部分で外国の人を受け入れていかなければならない」など2項目がインドネシアより有意に高かった。インドネシアは「外国の人とつきあうと視野が広がるのでよいと思う」「我々は諸外国から学ぶことが多い」「機会があれば国際的な舞台で活躍したいと思う」「外国で看護職として働きたい」など11項目が日本より有意に高かった。

ネガティブな態度では、日本は「外国の人とは緊張してうまく話すことができない」「外国の人を前にするとつい身構えてしまう」など4項目がインドネシアより有意に高かった。インドネシアは、「外国の人のわが国の滞在についてはもっと厳しい法律と取締りが必要だと思う」「外国の人がわが国で働く場合には特定の職種に限定するほうがよい」「わが国に住む外国の人にはわが国の人と同じような生活スタイルを目指してほしい」など8項目が有意に高かった。

考 察・結 論

平成23年度大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告²⁾では「長い職業生活においてあらゆる場、あらゆる利用者のニーズに対応できる応用力のある国際性豊かな看護系人材の養成を目指す」と明記されたが、国際看護教育への取組みは、十分とは言えない。中越ら³⁾は国際看護教育を担当する教員が考える、国際性を備えた看護師の能力について調査し、「対象者の文化と自文化の相違と類似の理解」「対象者と言語的・非言語的コミュニケーションを図る態度」などが挙げたと述べている。

本研究は、将来の看護を担う看護学生を対象に、日本とインドネシアの異文化受容態度について比較し考察するために調査した。異文化受容態度33項目の平均値から、日本・インドネシアともに、外国に対する興味・関心の高さが伺えた。受け入れ態度では、日本は、外国人に対し緊張が高く消極的であるのに対し、インドネシアは、より積極的な異文化との交流を望んでいた。また。日本は、自己に対してネガティブな態度であり、インドネシアは他者に対してネガティブな態度であった。これらの背景には、語学力の差や民族性(異文化混在の有無や国際化など歴史的、文化的、政治的側面)が影響している事が考えられた。

日本の看護教育においては、今日のグローバル化を背景に、外国人患者のみならず、外国人看護師との協働も視野にいれ、語学力の強化や国際交流の推進など国際看護教育のあり方について発展的に検討していく必要がある。

引用文献

- 向井有里子他(2006):異文化受容態度の構造、大阪市立大学大学院文化研究科紀要、63ー77.
- 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告 大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会(2016/8/1) www.mext.go.jp/b-menu/shingi/chousa/koutou/40/.../1302921.htm .
- 中越利佳他(2014):わが国の看護基礎教育における国際看護教育の現状と課題、愛媛県立医療技術大学紀要、11(1)、9ー13.

表3 異文化受容態度33項目の平均値ー日本・インドネシア比較				n=802
項 目	日本(n=305)	インドネシア(n=497)	P値	
1. 外国の人の多い地域に住むことに抵抗ある	2.84±1.28	2.76±1.17	ns	
2. 外国の人々ともっと深くつきあいたい	3.57±1.09	3.73±1.04	*	
3. 海外援助は、わが国の利益のためにならない援助はすべきでない	1.82±0.99	2.81±1.45	* *	
4. 外国の文化や外国の人たちのことは興味がない(逆)	4.21±0.98	3.65±1.23	* *	
5. 特別の外国の文化に接する機会をつくらうとは思わない(逆)	3.49±1.13	3.55±1.25	ns	
6. 在外国人の増加は治安の悪化に関係していると思う	2.68±1.10	2.66±1.22	ns	
7. 外国の人とはある程度距離をおいてつき合いたい	2.29±1.00	2.94±1.22	* *	
8. 長くわが国に住んでいる外国の人であっても、わが国の人と同じ権利がないのは仕方がない	2.07±0.99	2.93±1.34	* *	
9. 隣の家に外国の人が住むことになったら近所づきあいなどの面で不安を感じる	2.59±1.17	2.75±1.24	ns	
10. もっと我々はいろんな部分で外国の人を受け入れていかなければならない	3.91±0.93	3.43±1.19	* *	
11. わが国に住む外国の人にはわが国の人と同じような生活スタイルを目指してほしい	2.48±1.09	3.06±1.29	* *	
12. ほかの国の文化をもっとよく知りたい	3.93±1.06	4.14±1.02	* *	
13. 外国の人がたくさん集まっているなんとなく怖く感じる	3.28±1.13	2.57±1.23	* *	
14. わが国の文化と外国の文化の両方を同じように尊重していかなければならない	4.29±0.81	4.23±1.05	ns	
15. 外国の人を前にするとつい身構えてしまう	3.49±1.16	2.81±1.22	* *	
16. 外国の人とは文化、生活習慣が違っても、あきらめずにわかりあえるまで努力したい	3.55±0.92	3.83±1.04	* *	
17. 外国の人のわが国の滞在についてはもっと厳しい法律と取締りが必要だと思う	2.79±0.95	3.82±1.22	* *	
18. 特別な努力をしてまで外国の人と交流したくない(逆)	3.23±1.06	3.79±1.10	* *	
19. 外国の人とつきあうと視野が広がるのでよいと思う	4.18±0.80	4.30±0.91	*	
20. 外国の人が住むのに不便だと感じるような習慣はないほうがよい	2.78±1.03	2.92±1.20	ns	
21. 我々は諸外国から学ぶことが多い	4.02±0.79	4.27±0.91	* *	
22. 自国民に比べ外国の人は信用できない感じがする	2.82±0.97	2.62±1.21	* *	
23. 外国の文化がたくさん入ってきてこそ、わが国の文化は発展すると思う	3.46±0.95	3.49±1.17	ns	
24. 外国の人がわが国で働く場合には、特定の職種に限定するほうがよい	2.02±0.88	3.35±1.36	* *	
25. 自分の地域に外国の人が住むことになったら、地域の習慣などを率先して教えたい	3.21±1.00	3.90±1.13	* *	
26. 国際化や異文化交流などは私とは縁のないことである(逆)	3.51±1.09	3.78±1.23	* *	
27. 外国人の友達がたくさんほしい	3.42±1.20	3.98±1.09	* *	
28. 機会があれば国際的な舞台で活躍したいと思う	2.88±1.28	4.22±1.04	* *	
29. 外国の文化を積極的に取り入れることは、わが国にとってよいことである	3.73±0.95	3.01±1.26	* *	
30. 外国の人だけの集まりなどをするのは好ましくない	2.23±0.97	2.64±1.24	* *	
31. 外国の人の住む地域を限定したほうが、社会の秩序を保てると思う	2.03±0.90	3.04±1.22	* *	
32. 外国の人とは緊張してうまく話すことができない	3.71±1.10	3.36±1.23	* *	
33. 外国で看護職として働きたい	2.48±1.23	4.08±1.10	* *	
t検定	* p<0.05	* * p<0.01		

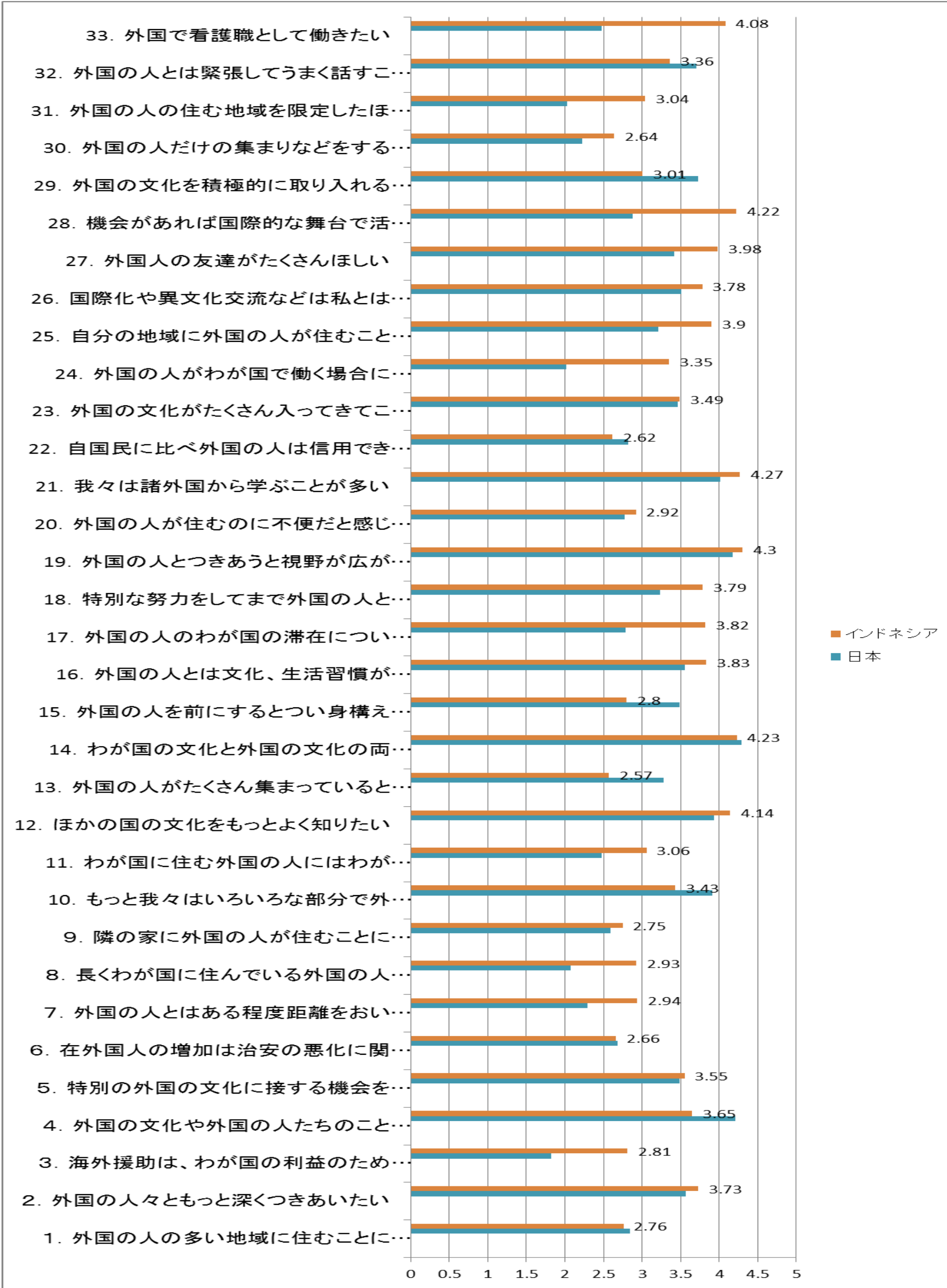


図1 異文化受容態度33項目の平均値ー日本・インドネシア比較